

防災科研ニュース

特集

- ・災害に強い病院づくりと医療活動への情報支援
- ・IT(情報技術)を活用した自治体の危機管理
- ・防災技術の情報化と共有環境の整備
- ・「役に立つ」防災技術情報の国際共有を目指す
- ・地震防災フロンティアで踏んだ新しいステップ

行事開催報告

- ・科学のまち・つくばの「真夏の防災教育」
- ・「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」のキックオフ会合を開催
- ・新庄支所一般公開

受賞報告

- ・森協理事が H22 年度日本地すべり学会論文賞を受賞



特集 地震防災フロンティア研究

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災は、膨大な複合都市災害を引き起こし、現代の都市構造に潜む脆弱性を衝撃的な姿で顕在化させました。この災害は、ハードな耐震技術への依存が高かった地震防災体制全体を、物理的課題、社会的課題、情報課題を克服する総合的な防災の仕組みに再構築することが緊急課題であることを示しました。この認識のもと、科学技術庁長官(当時)から航空・電子等技術審議会へ諮問が行われ、1997年9月に提出された「地震防災研究基盤の効果的な整備のあり方について」に対する答申(航電審24号答申)では、地震防災研究拠点で推進すべき研究課題として以下の5課題が提言されました。

- ①震源近傍の強震動予測
- ②極限地震動下での都市基盤施設の破壊メカニズムの解明と耐震技術の検証
- ③地震時の災害情報システムと危機管理システムの構築

- ④人間工学・社会科学に基づく災害過程の研究
- ⑤地震防災データベースの構築と運用

これらの目的を実現するため、2つの主要な施策、すなわち世界最大の実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)の建設と地震防災フロンティア研究センター(EDM: Earthquake Disaster Mitigation Research Center)の設立が行われました。EDMは、理化学研究所の持つ流動的な研究の枠組みであるフロンティア研究システムの下、1998年1月に兵庫県立三木山森林公園内の「森の研修館」に開設され、その後、2001年4月に防災科研が独立行政法人となるのを機に、防災科研に移管されました。EDMは設立以来その名の通り、地震防災における「フロンティア研究」に取り組むことを使命とし、さまざまな新しい研究課題にチャレンジしてきました。本特集では、それらの内、2006年度からの第2期中期計画期間における取り組みについてご紹介します。